



どうして志賀高原は
ユネスコエコパーク
に選ばれたの？

◆「志賀高原」を世界に広めた IBP（国際生物学研究）

1964年から1972年まで志賀高原を舞台に600人もの研究者が参加してIBP（国際生物学研究）が行われました。原生状態の亜高山帯針葉樹林（おたの申す平）がすぐ近くにあり研究施設もあることが選ばれた理由の一つです。

研究成果が発信されると、志賀高原の名は世界中に広まりました。



IBP 研究の基地となった信州大学の自然教育研究施設群

◆信大自然教育園

信州大学自然教育園は、志賀高原ユネスコエコパークの核心地域に隣接する研究・教育施設です。「おたの申す平」への自然観察路があり、誰でも志賀高原の自然を学ぶことができます。



信州大学自然教育園



志賀実習（信大教育学部）

◆モニタリングサイト 1000「おたの申す平」

環境省は日本全国1000か所程度のモニタリングサイトを設置し、生物多様性に関する長期間の観測を行っています。このモニタリングサイト1000に「おたの申す平」が登録されています。

「おたの申す平」は志賀山が噴出した溶岩によってできた溶岩台地です。この溶岩台地上のコメツガーオオシラビソ混交林の中に森林調査区（モニタリング）が設置され、2007年から毎年、調査が行われています。



右下の器具で落下した葉や種子の量を調べます